

にしじまクリニックの無痛分娩体制について

無痛分娩とは麻酔薬などを用いて陣痛を和らげながら分娩することをいいます。従来欧米で用いられている、硬膜外麻酔を使用した陣痛の疼痛緩和を”Labor analgesia”といい、直訳すると「陣痛緩和」となりますが日本では「無痛分娩」と呼ばれています。しかし文字どおり完全に「無痛」となるわけではありません。

当院では陣痛緩和のため、以下 2 種類の方法を提供しています。

□硬膜外麻酔

背中からの処置でカテーテルを硬膜外腔に留置し、局所麻酔薬を注入します。カテーテルから局所麻酔薬を時間毎に追加して陣痛を和らげていきます。鎮痛剤筋肉注射より疼痛の緩和が得られます。なおこの方法は

麻酔管理のため、当院では妊娠 37 週以降の計画出産（計画分娩）をお願いしております。

硬膜外麻酔を用いた無痛分娩費用はおおよそ 8 万円となります。

最近では局所麻酔薬の中毒症状や重篤な合併症を防ぐため、少量の麻薬を添加する鎮痛方法を主流としています。この場合は麻薬管理料として 1 万円を追加請求させていただきます。

硬膜外麻酔を用いた無痛分娩は、欧米で用いられている方法となんら変わりはありません。また当院は無痛分娩関係学会・団体連絡協議会（通称 JALA）から公表されている無痛分娩取扱施設の一つでもあります。

□鎮痛剤筋肉注射

主に分娩第 1 期の活動期に鎮痛剤を使用します。ペンタゾシン（ソセゴン®）という薬を筋肉注射します。分娩中、原則 1 回のみの使用で費用は 1 万円となります。事前の処置は不要です。

当院の無痛分娩体制について、詳しくは QR コードから当院のブログでもご確認をお願いします。

また Wovie での両親学級「無痛分娩」のご視聴も必ずお願いします。

当院での無痛分娩の内容を十分に理解しました。硬膜外麻酔を希望します。

令和 年 月 日

本人 氏名 _____

配偶者 氏名 _____



ご質問があれば、妊婦健診で医師にお尋ねください。

硬膜外麻酔の無痛分娩をご希望の方は、妊娠 26/27 週または妊娠 34 週の助産師外来で本用紙の提出をお願いします。

* 助産師外来で本用紙を提出されなかった場合は、硬膜外麻酔の無痛分娩を希望されないと認識させていただきます。帝王切開の術後鎮痛目的に硬膜外麻酔を希望される場合、助産師外来で「硬膜外麻酔を追加で希望する」とお伝えください。